

読書・学校図書館分科会

I 研究のあゆみ

4月21日(月)	2025年度名教組教研オリエンテーション (2025年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月12日(月)	研究計画の検討	【教育館】
5月29日(木)	研究内容の検討(第1次実践の計画)	【教育館】
6月19日(木)	研究内容の検討 (第1次実践のまとめと第2次実践の計画)	【教育館】
7月~8月	全体での会は開かなかったものの、個別に指導 研究内容の検討(研究のまとめと発表について)	
9月20日(土)	第75回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウイंकあいち】

II 研究協議の概略

読書に親しむことのできる児童の育成をめざして2つの実践が報告された。

○ 様々な分類の本に触れるためにゲームを取り入れたり、本の帯を作成して本を紹介したりする実践

さまざまなジャンルの本に出合えるよう、ビンゴというゲーム的な要素を取り入れることで、分類や配架に興味をもったり、様々な分類の本を読もうとしたりする児童の姿が見られた。

○ 読書の楽しさ、読書への意欲を高めるためにお気に入りの本を紹介したり、本の帯を作成して本を紹介したりする実践

仲間の紹介した本を通して、読書に興味をもつきっかけができたり、仲間のおすすめ本を読んでみたいと、新たに本を読んだりする児童の姿が見られた。

どの実践も、子どもたちが様々な分野の本に触れることができるよう、読書時間を記録したり、教員が意図的に機会を設定したりしたことで、常に子どもたちが本と接する環境や振り返る機会があり、読書への興味と幅の広がりが見られるという結果につながった。

また、子どもたちが本を通して交流し、幅広く読書しようという意識をもつ読書活動は、ゆるやかな協働性の中で、自律した学びをめざす「ナゴヤ学びのコンパス」にも対応した実践であったと考える。

III 今後に残された課題

読書活動は、あらゆる学習活動の基礎となり、子どもたちの主体的に学習に取り組む態度を育成し、確かな学びを支えていくために必要不可欠なものである。読書の習慣化や他教科との連携を図るためには、読書環境を整備し、児童が様々な分野の本と触れ合う機会を充実させていかななくてはならない。まずは教員自身がゆとりをもち、多様な本に触れることが大切である。そして、公共図書館や学校司書とも連携し、一層充実した学校図書館の活用の仕方を考えていかななくてはならない。